ABSTRAK

PENERAPAN STRATEGI PAILKEM MODEL GROUP INVESTIGATION DALAM PEMBELAJARAN SAKUBUN BAHASA JEPANG
(Uji Coba Terhadap Mahasiswa Tingkat II Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Pendidikan Indonesia Tahun ajaran 2012/2013)

Oleh:
Winda Widyanti
0906857

Skripsi ini dibimbing oleh:
Susi Widianti M.pd, MA dan Novia Hayati, S.Pd., M.Ed

Permasalahan yang melatar belakangi penelitian ini adalah rendahnya minat pembelajar bahasa Jepang terhadap pembelajaran sakubun, dikarenakan mereka berpendapat bahwa pembelajaran sakubun selama ini tidak menggunakan metode yang variatif sehingga dianggap membosankan dan sulit untuk dipelajari.

Penelitian ini bertujuan untuk melihat bagaimana penggunaan strategi PAILKEM model Group Investigation bila diterapkan dalam pembelajaran sakubun, apa saja kelebihan dan kekurangan strategi tersebut serta bagaimana tanggapan responden terhadap penggunaan strategi PAILKEM model Group Investigation ini dalam pembelajaran sakubun.

Penelitian ini menggunakan metode survey, teknik pengumpulan data dengan cara observasi, studi kepustakaan, penyebaran angket, dan tes. Jumlah sampel dalam penelitian ini berjumlah 74 orang mahasiswa Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang UPI tahun ajaran 2012/2013. Angket yang digunakan adalah model skala likert. .

Dari hasil penelitian diperoleh hasil bahwa penerapn strategi PAILKEM model Group Investigation selama pembelajaran berlangsung siswa terindikasi baik di keenam dimensi . diantaranya dimensi aktivitas, inovatif, lingkungan, kreatif, efektif, dan menyenangkan. Berdasarkan hasil dari penelitian tersebut dapat disimpulkan bahwa strategi PAILKEM model Group Investigation dapat memberikan pengaruh positif bagi siswa khususnya dalam pembelajaran sakubun.

Kata kunci : PAILKEM, *Group Investigation*, Sakubun

Winda Widyanti, 2013
Penerapan Strategi PAILKEM Model Group Investigation Dalam Pembelajaran Sakubun Bahasa Jepang
Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

作文の授業における PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルの使用（2012/2013 年度インドネシア教育大学日本語教育学科の二年生に対してトライアル）

ウィンダウィディヤンティ
0906857

要旨

本研究の背景は作文を学習**することは学生にとって難しいと感じられている。それは多様な教授法を使用していないので作文の授業に対して学習者の興味が低いからである。**

研究の目的は作文の授業における PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルの使用を知るためであり、本ストラテジーのプラス点とマイナス点を知り、学習者の印象を知る。

本研究の方法は実験調査を使用する。データ収集技法としては観察シートと**アンケー**トと作文のテストを使用する。本研究の対象は 2012/2013 年度のインドネシア教育大学の二年生である。本研究のサンプルは 74 人用いる。

研究の結果により作文の学習で使用する PAILKEM ストラテジーの Invesitgation モデルは、学生の学習は**六ディメンションに見られる。つまり、それらのディメンションは活性・確信的・能力・創造的・効果的・面白さである。研究の結果によると、作文の授業に学習者の学習動機に良い影響を与えることが分かった。**

キーワード　：PAILKEM, *Group Investigation*,作文

A. はじめに

外国語を勉強している際に、学習者は困難を受けることが多く、特に日本語でもそうある。そのため学習者は外国語を勉強しやすいために適切な学習方法を見つけなければならない。しかし、学習者は適切な習方法が見つからない。非常に多くの学習者は外国語を学習する時に難しさを感じる。

外国語の中で日本語のような言語には、四つの言語スキル、読む技能、聞く技能、話す技能、書く技能が必要。書く技能は一つの言語スキル外国語で書く学ぶは言語スキルの一つであるが実際には多くのひとは書く学ぶに好まない。また書く学ぶは外国語で書くからさらに難しく感る。その上、学生には母語でも書く習慣があまりない。さらに日本語で書くスキルは、平仮名とカタカナと漢字で書くので困難なことになった。

「インドネシア教育大学の三年生の作文学習ストラテジ（Istianingsih：2012）の研究ではには作文を勉強している時、学習 の難しさはアイデアがないからである。そのことからクラスの中で学習者は作文の授業につまらなくなくて、

Winda Widyanti, 2013
Penerapan Strategi PAILKEM Model Group Investigation Dalam Pembelajaran Sakubun Bahasa Jepang
Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

書く学ぶに好まなくなるため、おもしろいメソッドや適切な学習ストラテジーを見つけなければならない。

そこで、本研究は作文の授業で適切な学習ストラテジーを探る。つまり、PAILKEM ストラテジーの Group Investgation モデルの使用を試みる。

B. 研究の目的

1. 作文の授業で PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルの使用を知るためである。
2. 作文の授業で PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルの使用のプラス点とマイナス点を知るためである。
3. 作文の授業で PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルの使用に対して学習者の印象を知るためである。

C. 研究方法

. 本研究の方法は叙事詩を使用する。データの分析には量的なアプ ローチの "one shot case study を用いる。つまりコントロルクラルを使わず、実験クラスしか用いない。またデータを収集するには一度の手段を行う（Arikunto 2002 :75）。

本研究の対象は 2012/1013 年度インドネシア教育大学の二年生である。本研究のサンプルは 74 人を用いるが。研究のデータ収集には観察シートとアンケートと作文のテストを用いる。研究の手段には（１）研究課題を決定、（２）参考の検討、（３）実験と観察を行う、（４）アンケート調査を行う、（５）データの収集である。データを収集したあと次に手段を行う。

1. 観察の勝利は

$$NP = \frac{R}{SM} x100\%$$

. (Purwanto, 2009)

説明：

NP = PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルのパーセンテー ジ（活躍・革新的・協力・創造的。 効果的。 面白さ）

R = 成績を得られる

SM = 最大成績

その後、次のようにデータ結果を得た、スコアはカテゴリの中：

76 % -100 % = 良くカテゴリ
56 % - 75 % = 十分かてごり
40 % - 55 % = あまり良くないカテゴリ
0 % - 40 % = 良くないカテゴリ

(Arikunto, 2003)

2. アンケートのデータを処理する。
アンケート データのデータを処理：

$$P = \frac{F}{N} x100$$

説明　：

P = 回答者の回答それぞれの周波数。
F =回答者の回答の周波数
N =回答者の数
アンケート分析の結果：

0,00%	いない
01,00% - 05,00%	ほとんどいない
06,00% - 25,00%	一部いる–
26,00% - 49,00%	半分以下
50,00%	半分
51,00% - 75,00%	半分以上
76,00% - 95,00%	かなり多い
96,00% - 99,00%	ほとんど全部
100%	全部

3. 作文のテストのデータを収集する。
作文のデータを収集するはアセスメント形式のエッセイを指しますが、いくつかの要素のエッセイに分けられ、以下のようになる：

- 言語は語彙と書き込みと文法的な正しさ＝最大３５ポイント
- 作文の内容と話題との敵互生＝最大４５ポイント
- 作文の手法は段落の開 発と段落間の関係＝最大１０ポイント

D. データの結果：

1. 観測結果
74 人を 14 グループに分割し、実験中に行わなった観察結果にもっと図着、第一ディメンシオンから第六ディメンシオンは比率がことなるのが見られる。次はそれぞれのディメンシオンについて説明する：

Winda Widyanti, 2013
Penerapan Strategi PAILKEM Model Group Investigation Dalam Pembelajaran Sakubun Bahasa Jepang
Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

a. 活性

大部分のグループには学習者は積極的に学び特に第 1 カテゴリから第四カテゴリには良いカテゴリに意味する。

b. 革新的

作文の学習のは実験中に、学習者は書く際にアイデアを出すことができ、よりやすく書くことができる。しかし学習者の一部にはより長く文章をかくことができない。

c. 協力

この協力の次元に観察シートの中で五指示薬がある。一指示薬から五指示薬にかけて、良くカテゴリである。それは PAILKEM のストラテジーの Group Investigation モデルの使用は作文の学習の間に協力を上がることができる。

d. 創造的

十四グループには第三カテゴリに学習者は自発的にアイデアを出すことができ、それぞれ 85,7% と 93%の創造化が見られるこれは良いカテゴリとする。しかし一部のグループには 64.3%しかし示していない。そこで、PAILKEM のストラテジーの Group Investigation モデルのは学習者の創造化を高めることができるが学習者が書くことには速く進むことができない。

e. 効果的

全てのグループには第 1 カテゴリから第三カテゴリに PAILKEM ストラテジの Group Investigation モデルは作文学習に効果があることが見られる。

f. 面白さ

全てのグループには第 1 カテゴリから第四カテゴリに PAILKEM ストラテジの Group Investigation モデルは学習者にとってより面白いと評価がある。

g. アンケートの結果：

- .学習者は作文の学習にテーマを決めるため、アイデアを開発し、適切な文型を決定しなけれならないので、学習が困難であることに合意した。
- PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルに学習者が自分のアイデアを開発、およびアイデアを伝えることに 助けることができる。
- PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルは学習がより楽しくなり、学生の学習動機をたかめることができる。
- PAILKEM ストラテジーの Group Investigation モデルは長い時間がかかる。
- PAILKEM のストラテジーの Group Investigation モデルは作文学習に連続的にせず、一時的に使用すれば適切である。

E. 作文のデータの結果

Winda Widyanti, 2013
Penerapan Strategi PAILKEM Model Group Investigation Dalam Pembelajaran Sakubun Bahasa Jepang
Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

	レベル	学習	割合
1.	44-50	3	4%
2.	51-57	6	8%
3.	58-64	7	9,4%
4.	65-71	6	8%
5.	72-78	22	29,7%
6.	79-85	17	23%
7.	86-92	12	4%
8.	93-99	1	1,3%
合計		74	100%

上記の表に基づいて、PAILKEM ストラテジーの *Group* Investigation モデルの使用は学生の成績が 72-78 レベルである。

F. 終わりに

PAILKEM のストラテジーは作文学習における良い評価を与えるため、ついぞく的に使用する必要がある。そこで、次の課題としては実験調査で PAILKEM ストラテジーの効果を図る必要があると思われる。

参考文献

Arikunto, Suharsini. (1997). *Prosedur Penelitian Suatu Pendekatan Praktek Edisi Revisi V*. Jakarta: Rineka Cipta.

Sutedi, Dedi. (2009). *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.

Matsura, Kenji. (1994). *Kamus Bahasa Jepang – Indonesia*. Kyoto: Kyoto Sangyo University Press.

Istianingsih, Anggi. (2012). *Strategi Belajar Menulis Mahasiswa Tingkat III Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Pendidikan Indonesia Tahun Ajaran 2011/2012*. Skripsi Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Pendidikan Indonesia , Bandung : tidak diterbitkan

Winda Widyanti, 2013
Penerapan Strategi PAILKEM Model Group Investigation Dalam Pembelajaran Sakubun Bahasa Jepang
Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu